

オオネクイハムシ

Plateumaris constricticollis (Jacoby)

【選定根拠】 b 生息地が局限

【形態】 体長10~12mm。体は黒色で鈍い銅色光沢があり、触角、口部、肢は赤褐色を呈する。本県産は北海道~東北地方の原亜種と、未命名の阿武隈型に属している。

【分布】 北海道と本州に分布しており、原亜種(北海道~東北地方産)、中部日本亜種(新潟県~長野県産)、北陸亜種(富山県産)、中国亜種(兵庫県~広島県産)の4亜種に分けられているが差異は判然とせず、最近では亜種に分けなくなっている。

【県内の分布、生息状況】 川内村、矢祭町、埴町、浅川町、西郷村、福島市から記録されており、いわき市、猪苗代町でも得られている。湿地周辺の半日陰のスゲ類や、コバイケイソウやミズバショウの葉上で発見される。

【主要文献】

小宮義璋・大桃定洋(1985)阿武隈山地南部花園山塊のネクイハムシ類。月刊むし, (168): 38.

小宮義璋・大桃定洋・高桑正敏(1986)ネクイハムシ類1985年の採集, 観察記録。甲虫ニュース, (71): 5-6.

佐藤光一(1989)阿武隈山地南部のクロガネネクイハムシ。インセクト, 40(2): 135-136.

大桃定洋(1993)県南地方の甲虫分布資料(その4。ネクイハムシ亜科)。ふくしまの虫, (11): 3-5.

水野谷昭三(2000)県南部のオオネクイハムシについて。ふくしまの虫, (19): 52.

希少 コウチュウ目 ハムシ科

タグチホソヒラタハムシ

Leptispa taguchii Chujo

【選定根拠】 a どの生息地においても低密度で希少 b 生息地が局限

【形態】 体長4.2~4.5mm。体は黒色で細長い。前胸背板は強く密に点刻され、その側縁は前方にやや広がり後縁前方でやや狭まる。

【分布】 本州と九州に分布している。

【県内の分布、生息状況】 久保田(1994)による福島市の記録が唯一のものである。ススキに依存している種で個体数が少ない。

【主要文献】

久保田憲二(1994)福島市摺上川上流域の昆虫 コウチュウ目。ふくしまの虫, (12): 33-67.

希少 コウチュウ目 ヒゲナガゾウムシ科

イトヒゲナガゾウムシ

Exillis japonicola Nakane

【選定根拠】 a どの生息地においても低密度で希少

【形態】 体長2.7~3.5mm。体に比して触角が非常に長く、雄では体長の4倍、雌では2~2.5倍もある。背面は毛による灰色紋を有するが、変異が大きい。

【分布】 本州、四国、九州、三宅島、御蔵島、八丈島、対馬、琉球に分布している。

【県内の分布、生息状況】 妹尾(1987)による山都町の記録が唯一のものである。本種はシイなどの常緑広葉樹林に多く見られるが、山都町ではブナ林から発見された。福島県が分布の北限となっている。

【主要文献】

妹尾俊男(1987)イトヒゲナガゾウムシの東北地方からの記録。月刊むし, (193): 42-43.

希少 コウチュウ目 ミツギリゾウムシ科

ミツギリゾウムシ

Baryrhynchus poweri Roelofs

【選定根拠】 a どの生息地においても低密度で希少

【形態】 体長10.6~23.5mm。体色は光沢のあり赤褐色から黒褐色を呈し、上翅には6~7対の黄赤色紋がある。雄の吻は短くて前方に広がるが、雌では細長い棒状となる。

【分布】 本州、四国、九州、屋久島、琉球(中之島、奄美大島、徳之島、沖縄本島)に分布。

【県内の分布、生息状況】 田添(1980)による檜葉町の記録が唯一のものであるが、檜葉町では広葉樹の伐採木よりしばしば見いだされている。福島県が分布の北限となっている。

【主要文献】

田添京二(1980)福島県産甲虫覚書 その10。福島生物, (23): 1-5.